

病院と地域、患者さんをつなぐ“広報力”を磨く

第16回医療機関広報フォーラム

<開催概要>

日時 2020（令和2）年3月4日（水） 13:00～17:00
 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 417号室
 （東京都渋谷区代々木神園町3番1号）
 対象 医療専門職・事務職・看護職など、職種を問わず広報に関心のある医療機関従事者
 定員 100人
 主催 公益社団法人日本広報協会
 後援（予定） 厚生労働省、（公社）日本医師会、（公社）日本看護協会、（一社）日本病院会、（公社）全日本病院協会、
 （一社）日本医療法人協会、（公社）日本精神科病院協会、（公社）全国自治体病院協議会、
 （一社）日本精神科看護技術協会
 参加費 8,150円（税込み） ※日本広報協会会員は5,100円（税込み）

<プログラム>

13:00～14:00

講義 1

集患・増患につながる医療機関ウェブサイトのポイント

講師：立本正樹／株式会社幻冬舎ウェブマ代表取締役社長・幻冬舎ゴールドオンライン編集長

多くの方がインターネットの情報を参考に医療機関を選ぶ現在、医療機関にとって、ウェブサイトは自らの強みや魅力を発信し、集患・増患につながる重要なツールとなっています。この講義では、患者さんに選ばれるために、医療機関のウェブサイトはどうあるべきか、また、ウェブサイトを見てもらおうための工夫や、情報を発信する上での注意点などについて、具体的な事例を交えながら学びます。

■たちもと まさき：大学卒業後、金融専門出版社にて編集者としてのキャリアを積み、月刊誌編集長を務める。2012年、幻冬舎グループに入社。現在8000人超の富裕層メンバーを抱える会員組織の立ち上げ、月間3,000万PVの富裕層向けWEBメディア『幻冬舎ゴールドオンライン』の立ち上げ・制作統括など、事業企画・Web戦略全般を担当。

14:15～15:45

講義 2

読みたくなる広報誌のデザイン・レイアウト

講師：吉村潔／エディター・日本広報協会広報アドバイザー

広報誌は、患者と医療機関とをつなぐ重要なコミュニケーションツールです。でも、せっかくつくっても読まれなければ何にもなりません。患者さんが手に取って読んでみたくなり、病院に対する信頼感や好感度が増すような広報誌をつくるためのポイントを学びます。なお、講義の中では、参加医療機関の広報誌の公開クリニック（診断と改善点のご提案など）を行います。

※クリニックをご希望の方は、事務局宛に広報誌を**2月4日（必着）**までにお送りください。ただし、講義時間の都合で、全ての広報誌をクリニックできない場合がございます。ご了承ください。

■よしむら きよし：取材記者、編集、株式会社メディアブレン代表取締役を経て、現職に。広報誌やグラフ誌の企画・取材、原稿執筆、レイアウト・デザインまで、編集全般に携わる。日本広報協会広報アドバイザー。全国広報コンクール広報紙部門・写真部門審査委員。主な著書に『実践・広報紙づくり』など。

16:00～17:00

講義 3

病院の思いを伝える広報誌・ウェブサイト・SNSの文章術

講師：前田めぐる／コピーライター・プランナー・日本広報協会広報アドバイザー

広報誌やウェブサイト、SNSなど、患者さんに情報を発信するツールはさまざまありますが、そこで重要なのが「伝えるコトバ」です。しかし、どんなコトバで、どういうふうに文章を書いたらいいのか、悩む方も多いのではないのでしょうか。この講義では、分かりやすく信頼される文章の基本から読みたくなる文章の極意、また、病院の理念や特徴など「伝えたい情報」を「伝えたい人たち」へ伝わるように発信するために知っておきたい文章術のポイントを学びます。

■まえだ めぐる：企画制作会社でコピーライター、プランナーとして広告の企画立案から制作、自治体事業の商品開発などを経験し独立。企業の販促支援、事業アイデア支援を行うかたわら、発想法・文章法の講座、創業者向け交流型ワークショップなど開催。著書に『この一冊で面白いほど人が集まるSNS文章術』（青春出版社）など。

※情報・意見交換の一つとして、皆様の医療機関の広報誌等を、ぜひお持ちください。会場で閲覧できるように展示いたします。